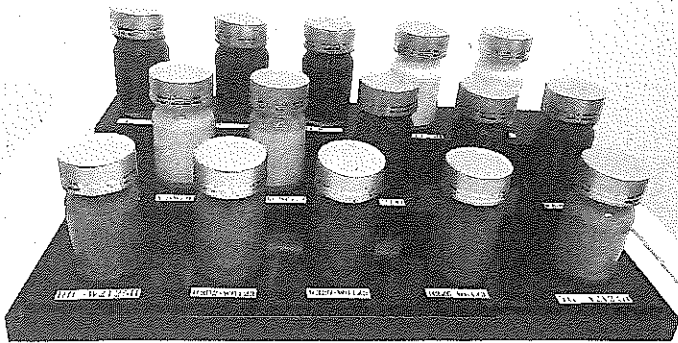


化粧品着色剤で独自商品

大成化工、1億円事業目指す



性能面に
優位性
耐水性など引き出す

【千葉】大成化工(千葉県成田市、稲生豊人社長)は、化粧品用着色剤事業に本格参入する。これまでの受託製造に加え、6月末から自社商品のサンプル出荷を始める。グループの技術が生かされるとともに、コロナ禍が収束しつつある中、化粧品需要が増加すると判断した。2026年3月期までに化粧品関連の売り上げで累計1億円、売上高に占める自社商品の比率で10%(23年3月期は数%)をそれぞれ目指す。

アイライナーやアイブロー、マスカラ、水性ネイル向けに供給する。大成化工が工業用で蓄積した微粒子を均一に分散する技術を活用。さらにグループ会社である大成フアインケミカル(千葉県旭市)が顔料を分散する専用樹脂を設計した。これにより顔料をより安定的に均一分散することが可能になり、発色性に加え、耐水性や耐皮脂性、耐摩耗性を引き出すことが可能になる。15色を用意する。

着色剤は15色を用意しており、調色して使用する。価格は購入量で変動するが、主力のカーボンブラックの場合、1キログラムあたり1万1500円程度を想定している。水に溶ける水系のため環境負荷が低いことなどを訴求し、大手化粧品メーカー向けにOEM(相手先ブランド)生産する企業などをターゲットに拡販する。

事業化調査ではアイライナーを海外展開する企業の商品に、今回の着色剤を導入したところ、耐水性と耐皮脂性、耐摩耗性が向上。さらに同業他社の着色剤と比較しても性能面で優位性を確認できたため、自社商品としての展開に踏み切る。

大成化工の23年3月期は売上高が前期比約10%増の11億円で増収増益。土木塗料の受託製造と新規受注が寄与した。24年3月期も売上高が12億円と増収増益の見通しだ。収益力をアップするため、今後、自社商品を拡充する。化粧品関連では日焼け止め用分散体を同時展開するなど、将来は売上高に占める自社商品の比率を20-30%に引き上げる。